

2013特別見学ツアー報告書

[釈王寺本堂]

ここは香川県東かがわ市大谷/前方に釈王寺の山門とその左手背後に本堂の屋根が見えている



山門/木造



この山門は本堂(木造)の施工をした社寺建築工務所の棟梁の一人が後年になって建てたという

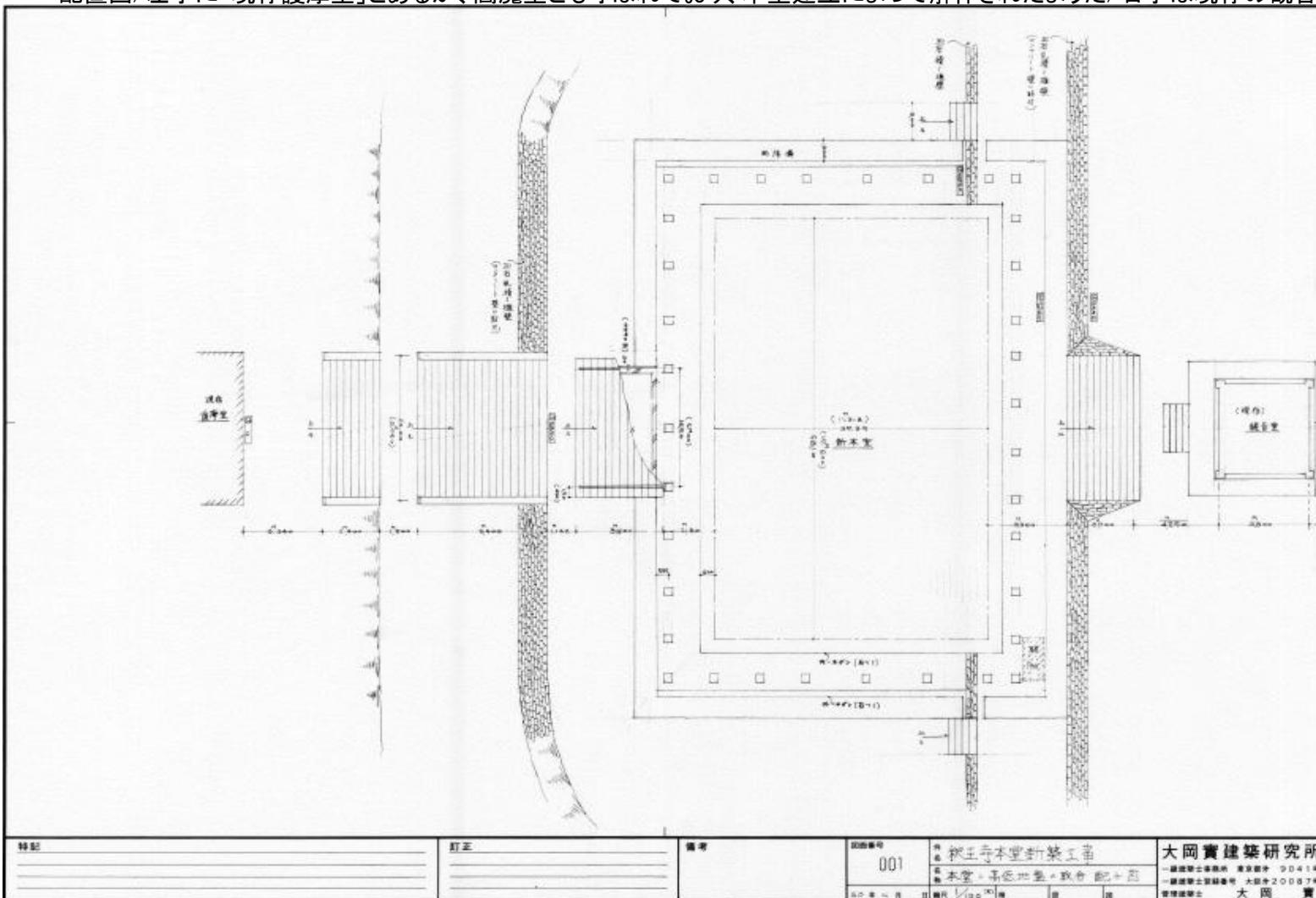




正面前方に本堂が見える/右手前は客殿



配置図/左手に「現存護摩堂」とあるが、閻魔堂とも呼ばれており、本堂建立によって解体されたようだ/右手は現存の觀音堂



本堂正面



屋根の形式(寄棟)も含めて、正面外観は当麻寺本堂を範としていると言われる



アップで見る

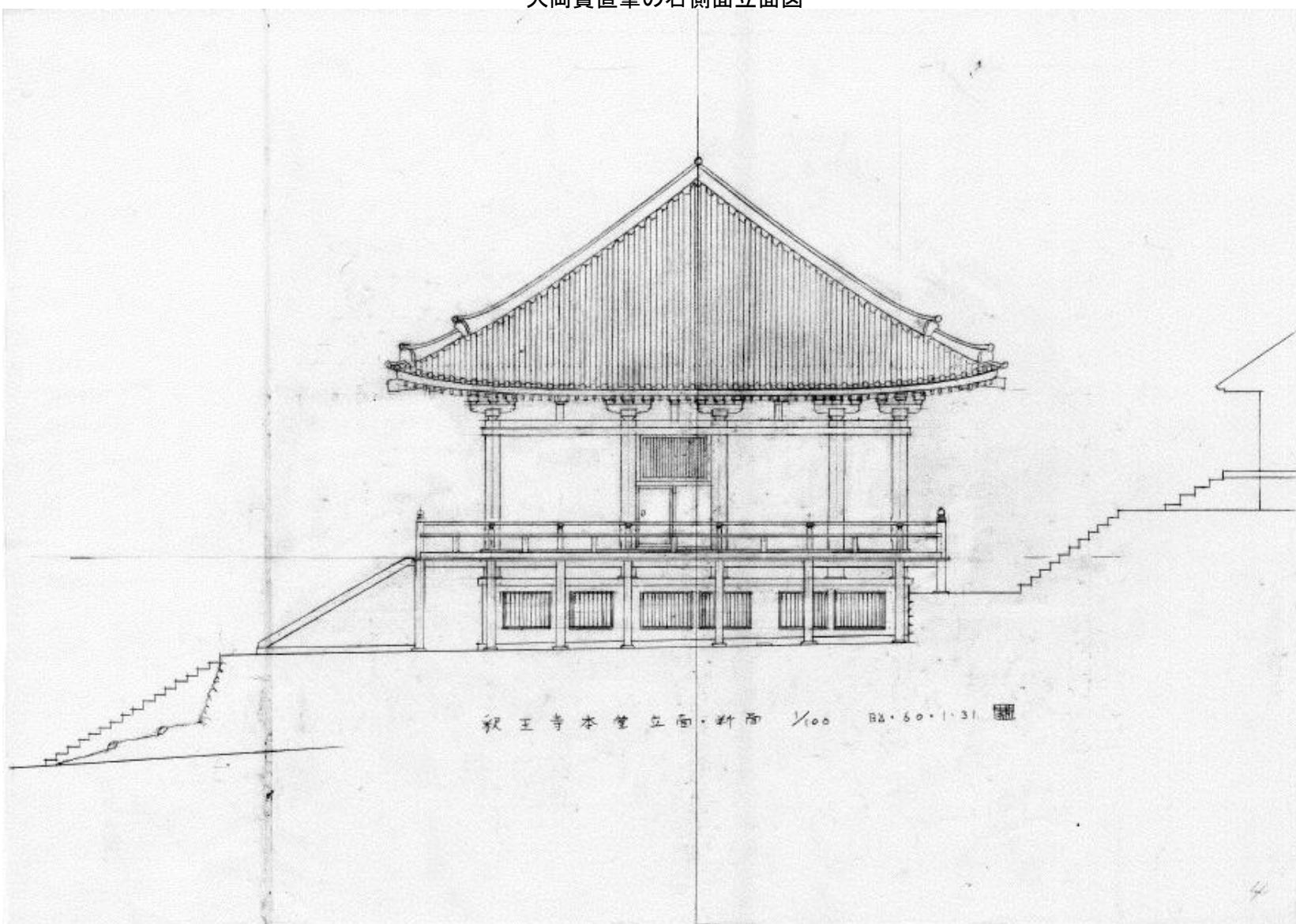


階段下から見上げるとこんなイメージとなる

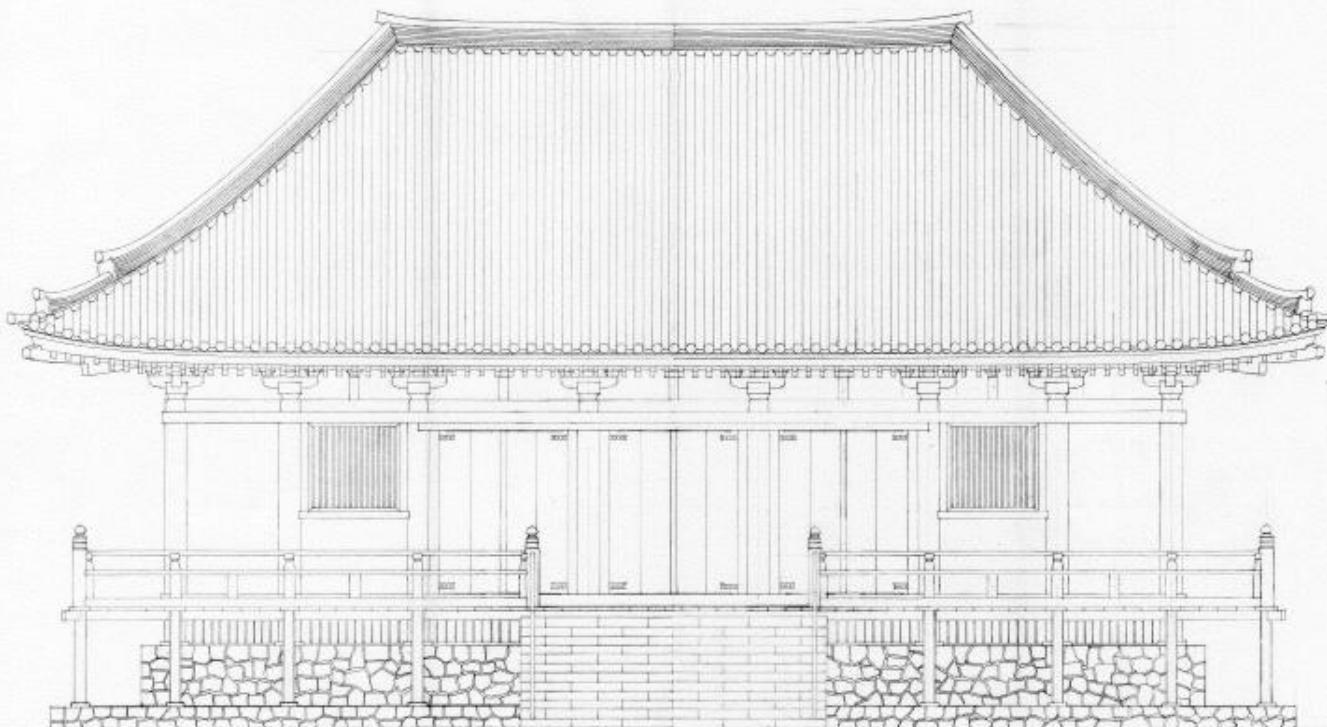




大岡實直筆の右側面立面図



正面立面図



特記

訂正

備考

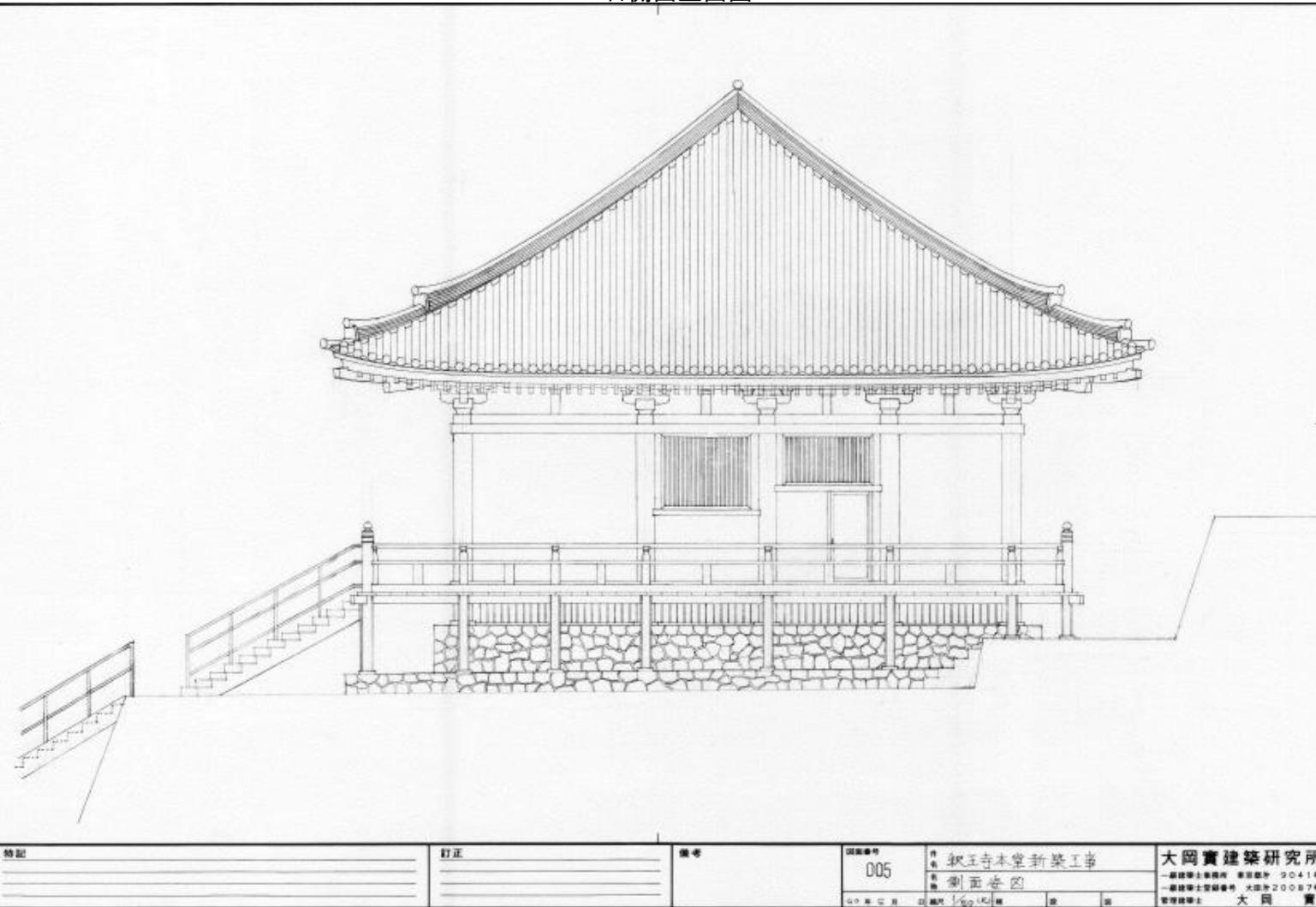
説明書号

006

施主 祐王寺本堂新築工事
監修 正面立面図
○年○月○日 計画者 ○氏名
監理建築士 大岡實

大岡實建築研究所
一級建築士事務所 登録番号 0041号
一級建築士登録番号 大岡実 20057号
監理建築士 大岡實

右側面立面図



特記

訂正

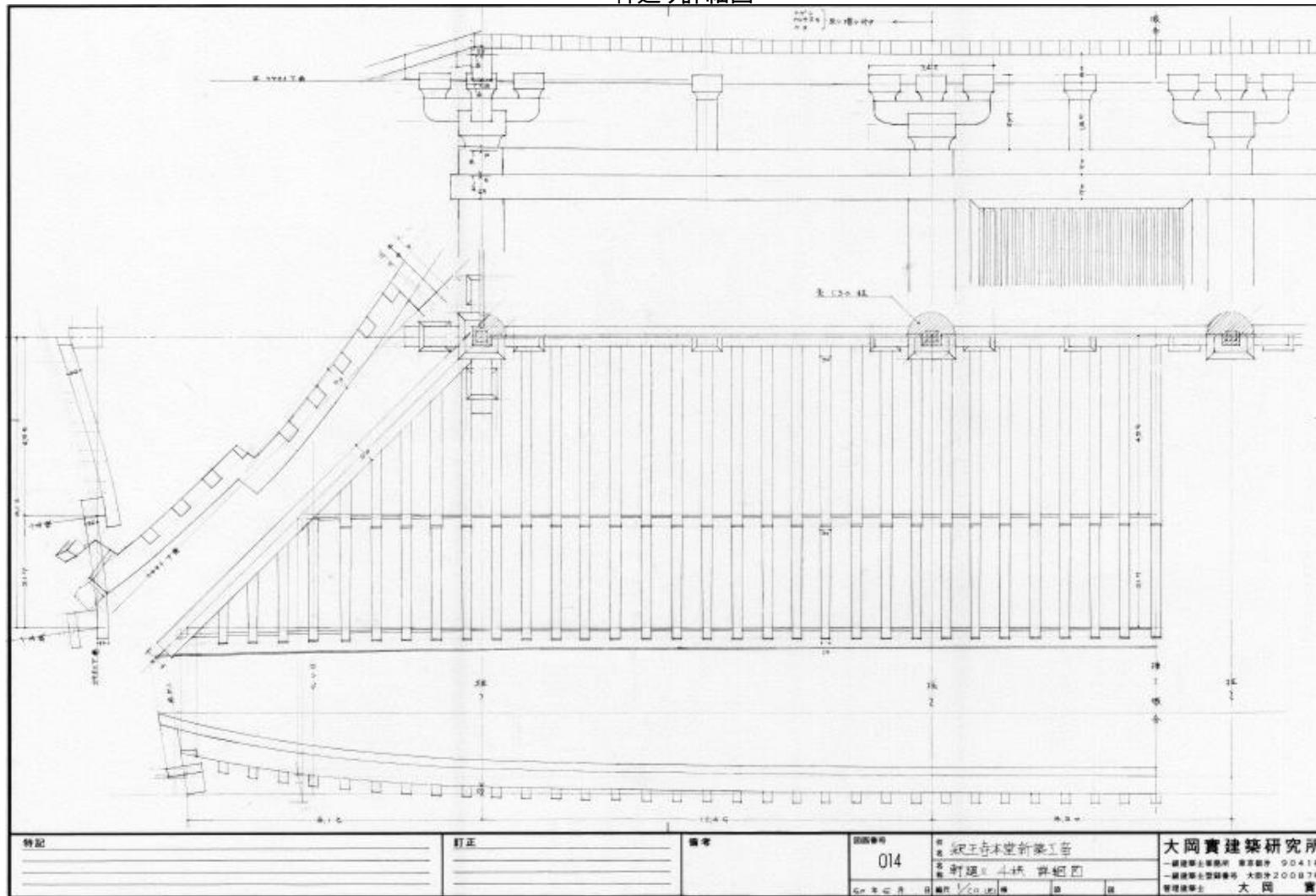
備考

図面番号
005

作成者
測面者
日付
西暦
西暦
西暦
西暦

大岡實建築研究所
一級建築士事務所
一級建築士事務所
大岡実
監理建築士
大岡實

軒廻り詳細図



左側面/左手の擁壁の上に観音堂(既存)が見える



左後方から見る



右側面/右端コーナーは闊伽(あか)



前面を右手から見る



左側面を後方から見る



本堂背面/右手の玉石乱積の擁壁(コンクリート壁に貼付)も同時に施工された



右側面を前方から見る



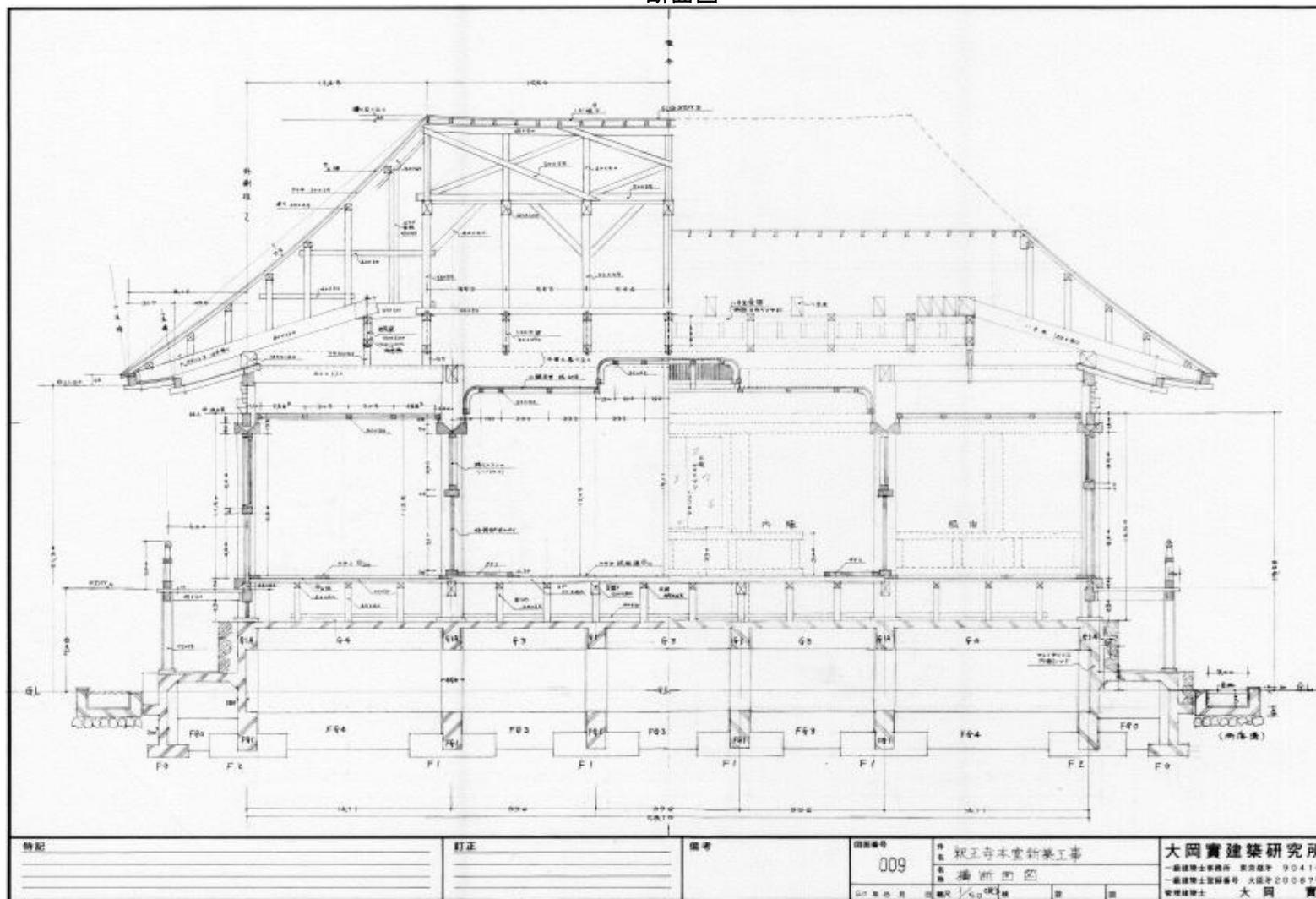
正面ディテール



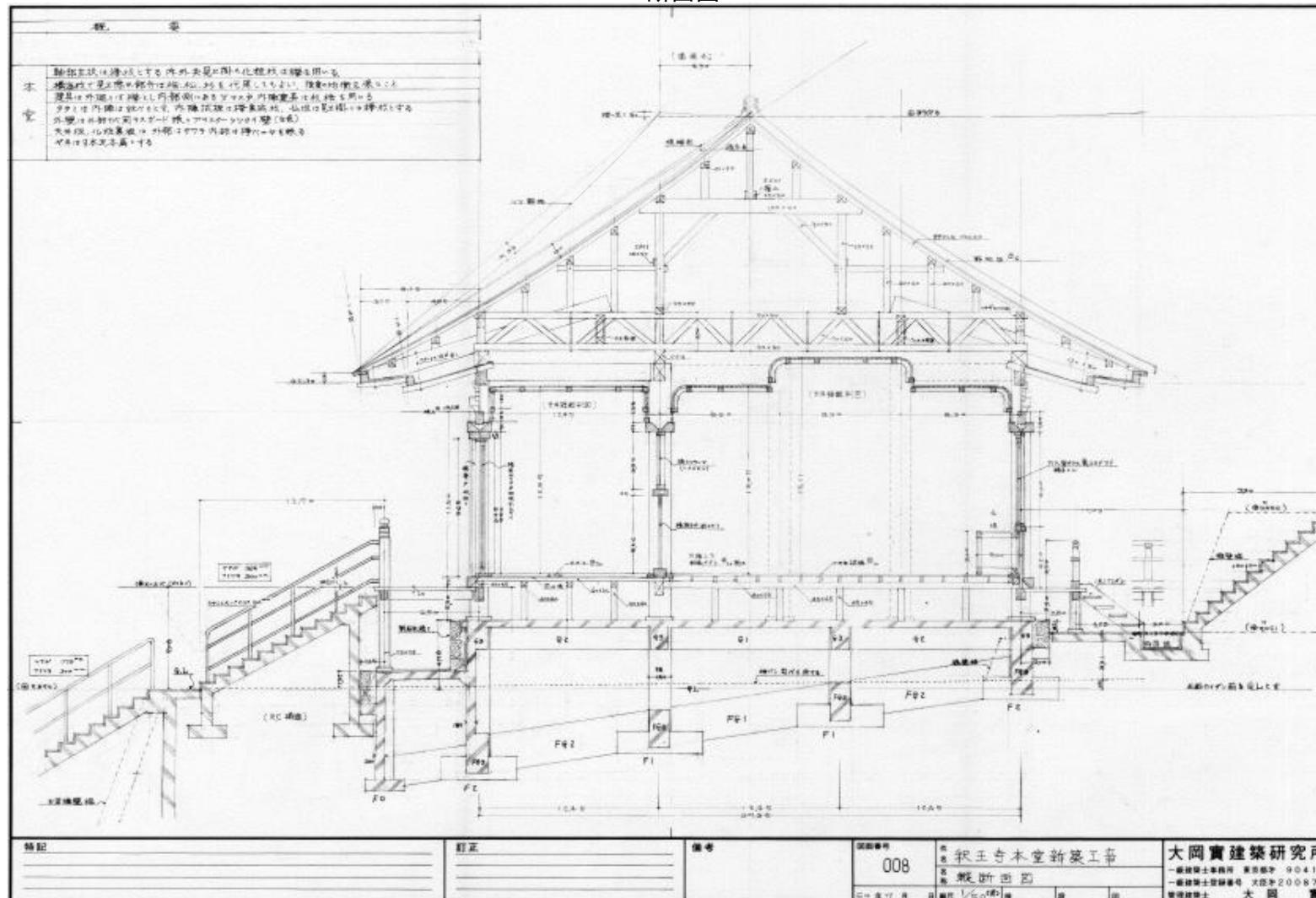




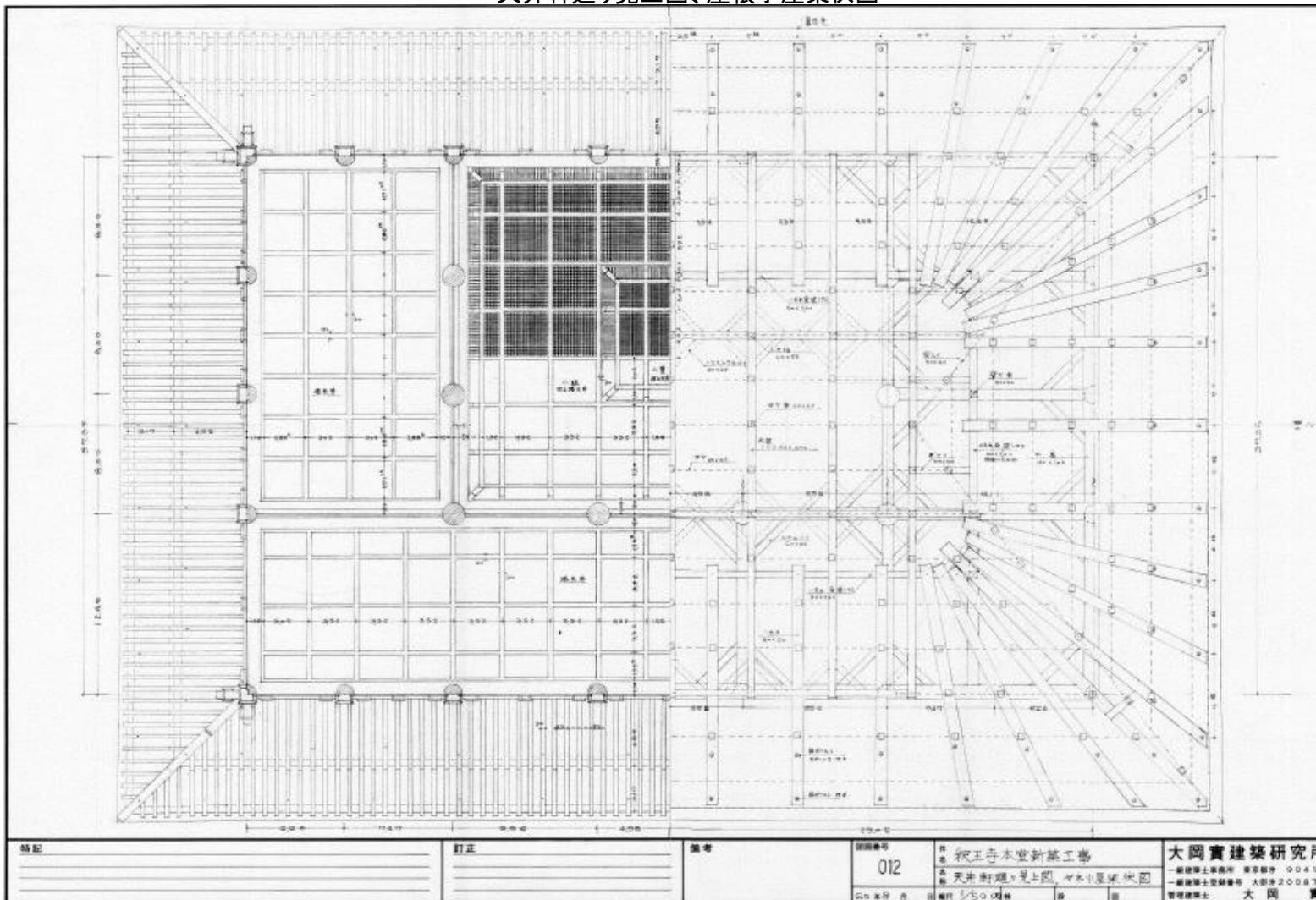
断面図



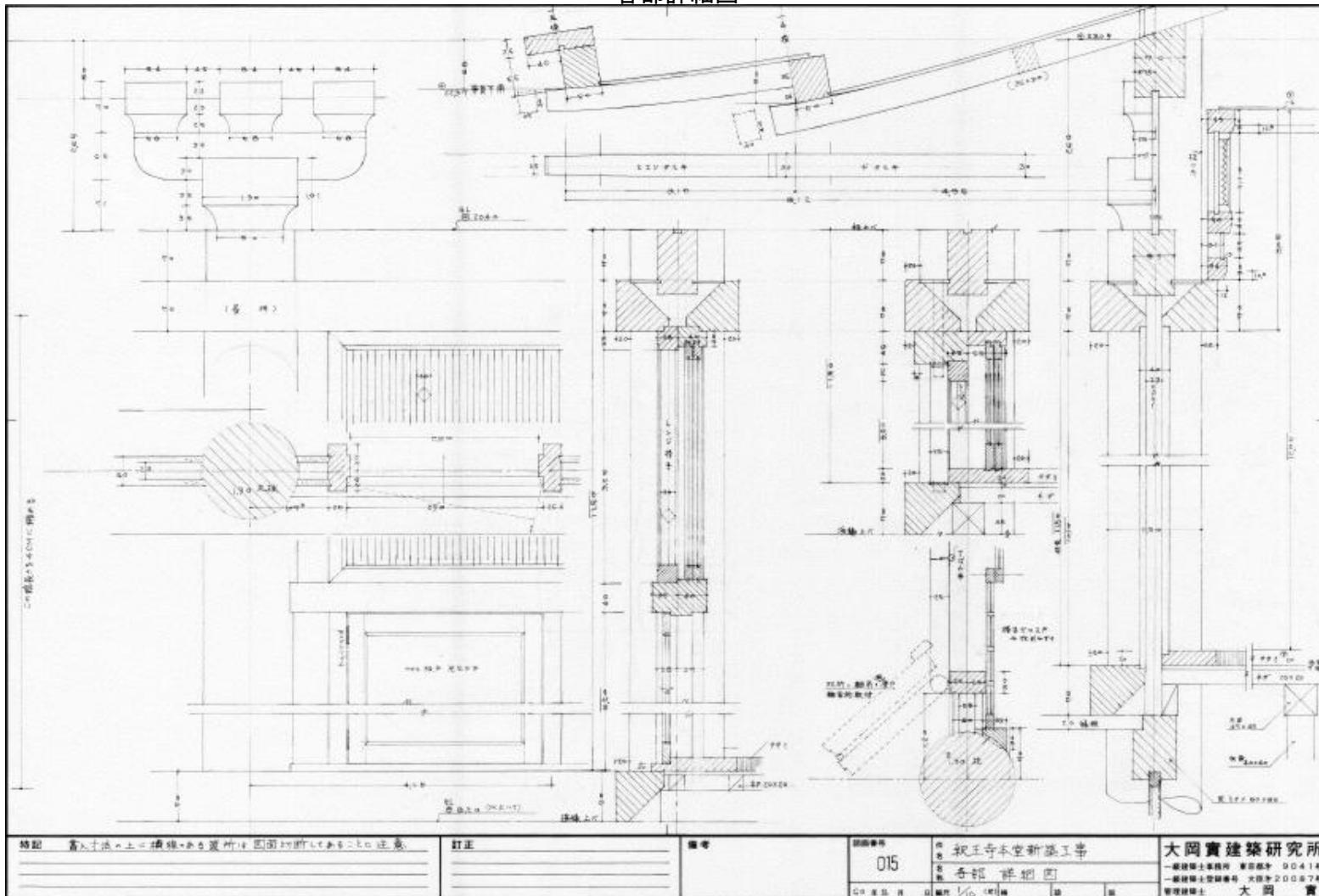
断面図



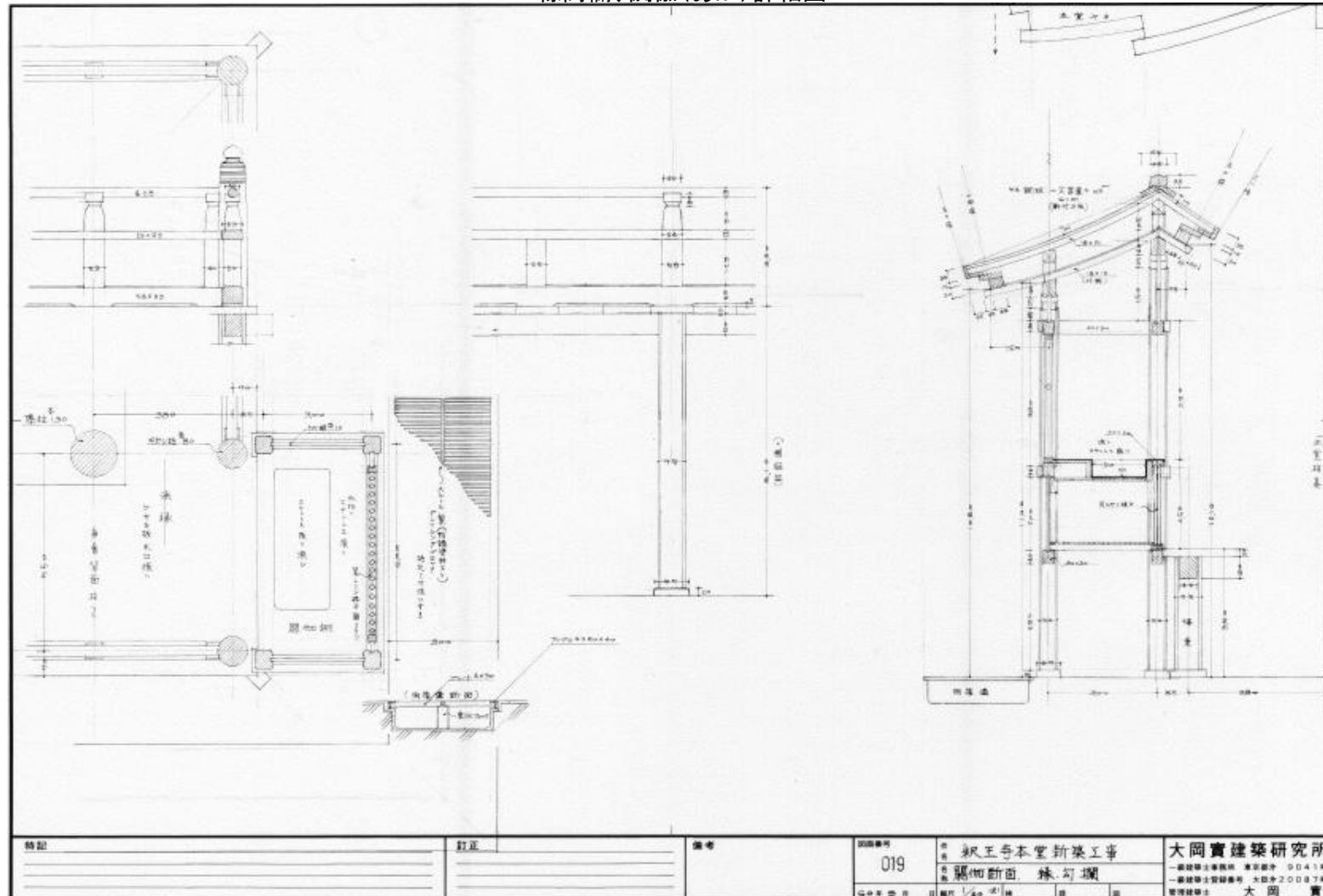
天井軒廻り見上図、屋根小屋梁伏図



各部詳細図



縁高欄、闕伽(あか)詳細図



斗栱は平三斗/ 中備は間斗束





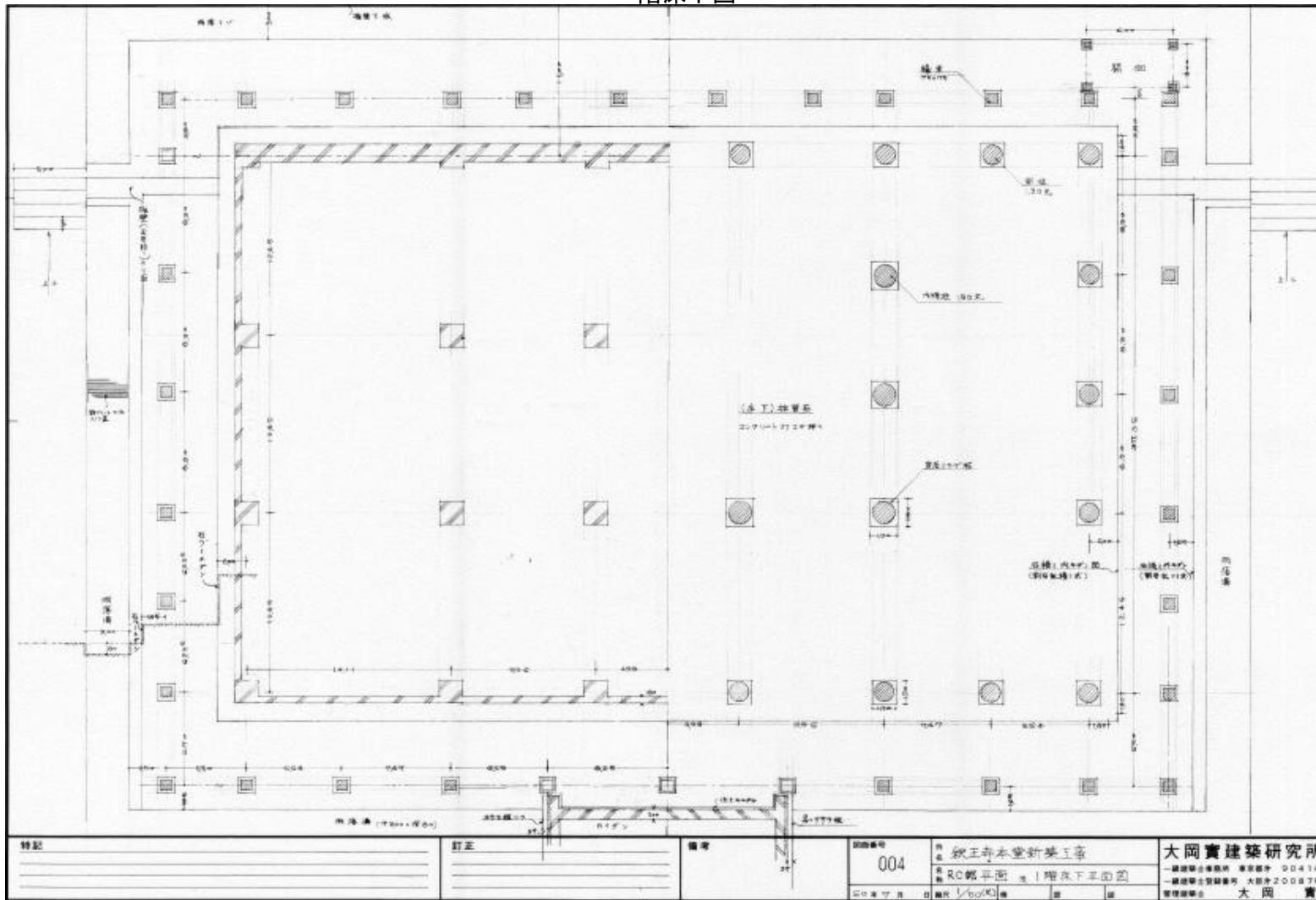








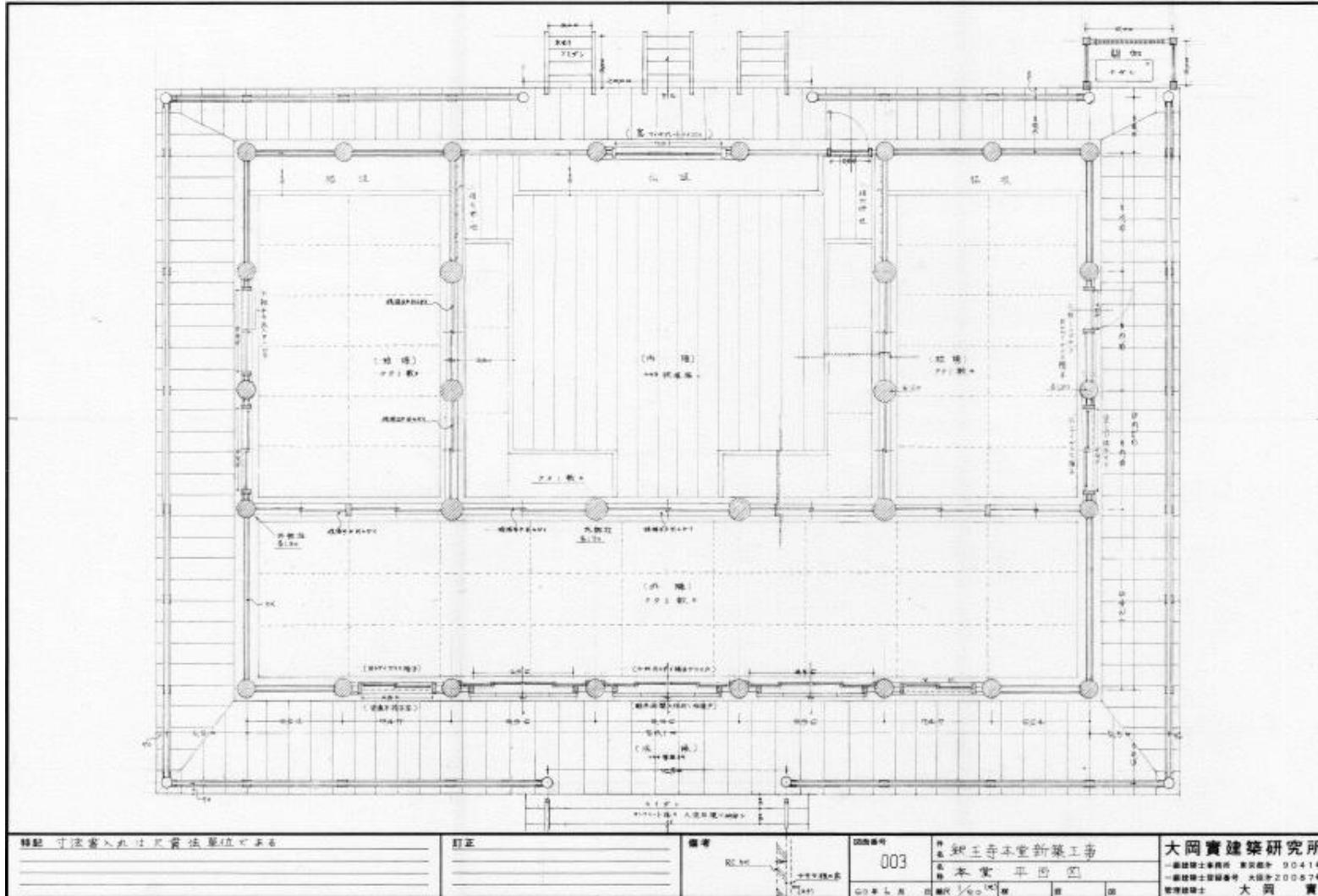
一階床下図







一階平面図



外陣

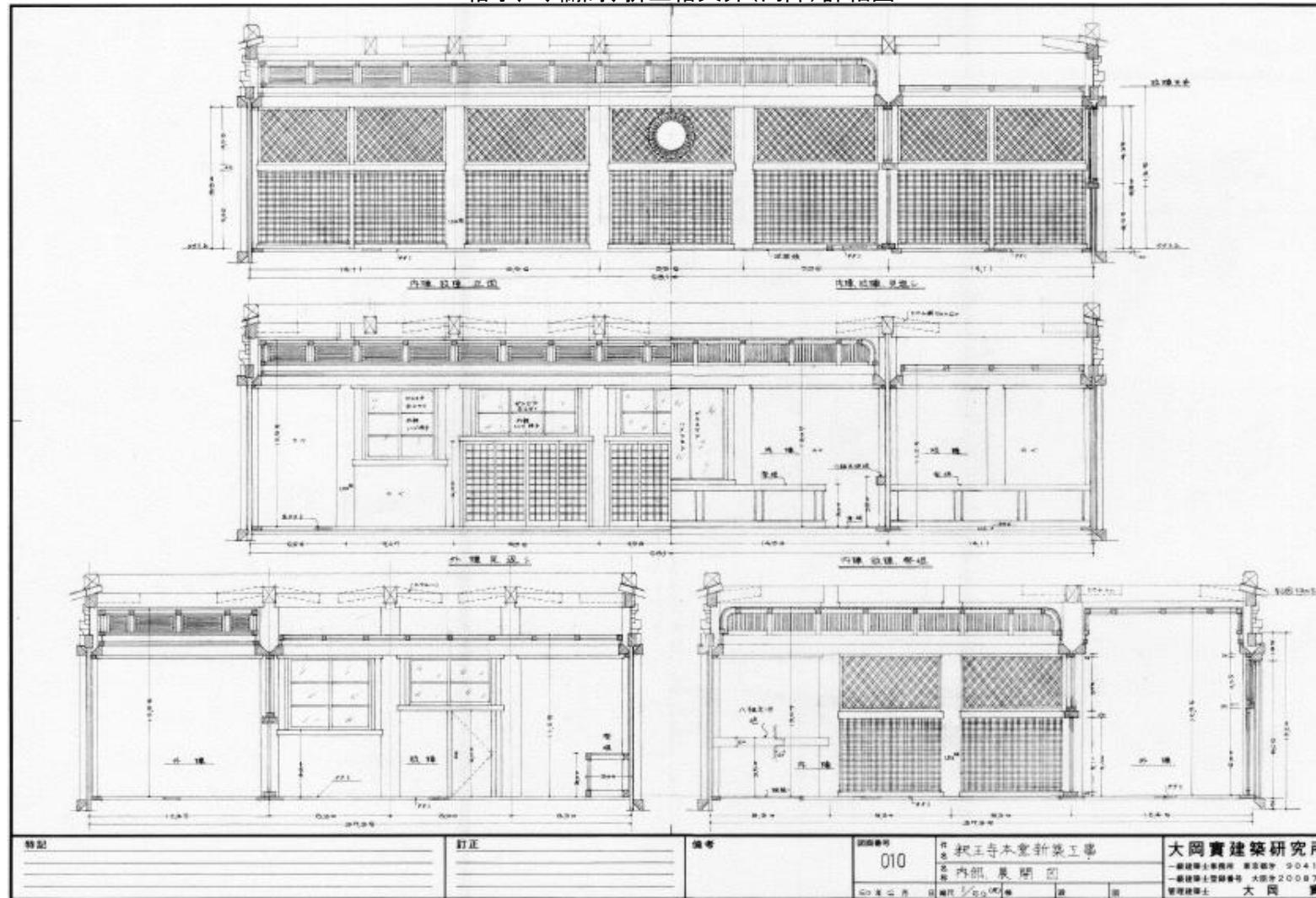


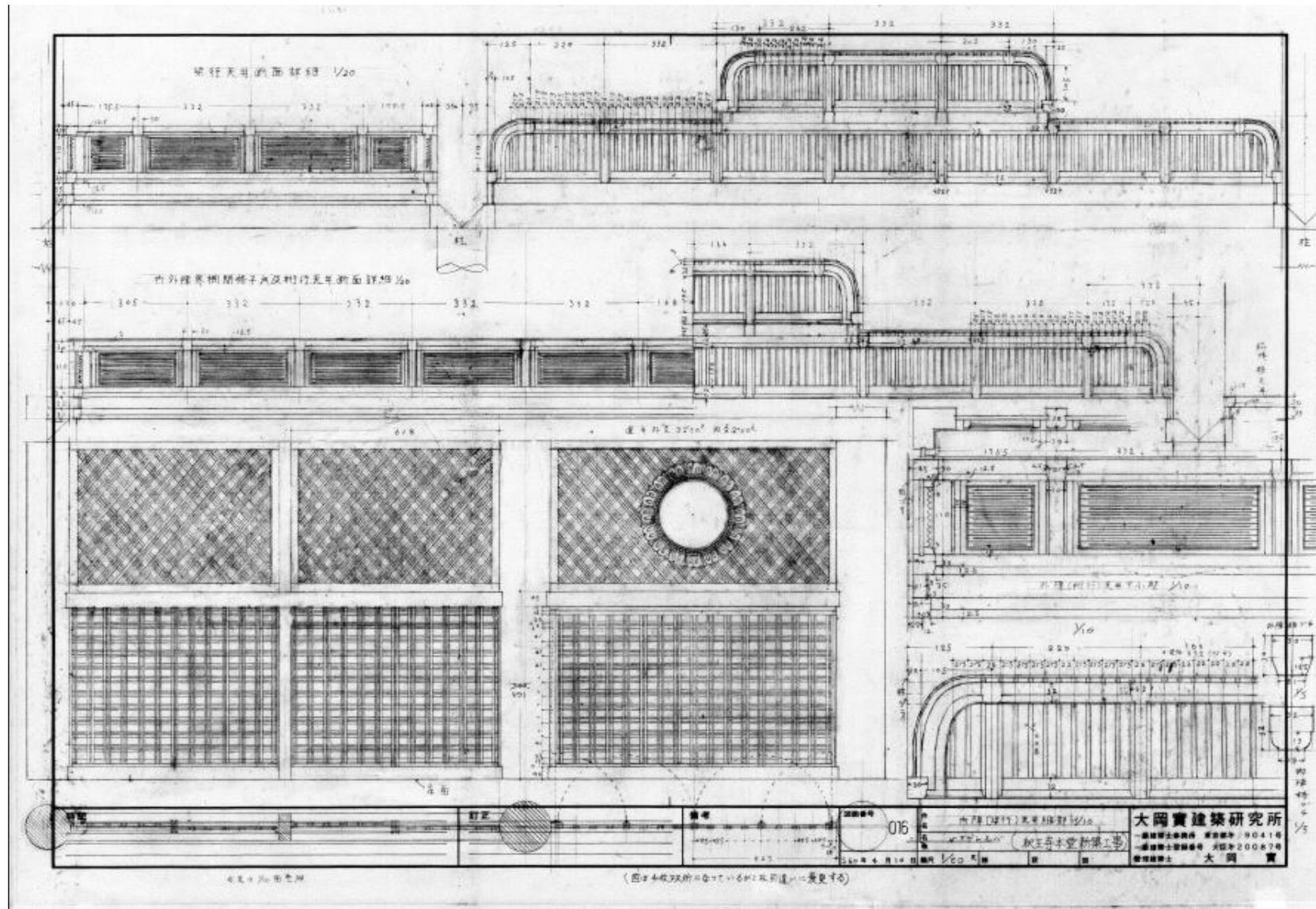
外陣と内陣を仕切る欄間入り格子戸





格子戸、欄間、折上格天井(内陣)詳細図





左手が觀音堂(既存)/ここに本尊の木造聖觀音立像(重要文化財)が収蔵されている





境内社もある



山門方向を見下ろす



さて、他の建物(他者の設計による)も見てみよう/これは不動堂



不動堂正面/江戸時代の建立のようだ



境内側から見た山門と鐘楼(右手)



鐘樓





山門



山門左側面





これは客殿





アップで見る/この建物は江戸時代の建立という



客殿内部から見た不動堂



こちらには通用門がある



築地塀も整備され、立派な境内が構成されている



宝篋印塔もあった



お宝写真

竣工当時の本堂の写真



この写真は設計にあたって現地を訪れ、手前にあった護摩堂(閻魔堂/解体された)の前で大岡實(中央)と松浦弘二(右手)



この写真は「松浦資料」の釈王寺の資料の中にあったもので、現地調査の後、どこかに立ち寄った際に撮影したものと思われる/背後の建物は何であろうか/いずれにしてもこの時大岡實は高齢となっており、この作品が大岡實が携わり、実現した最後のものとなった(ちなみに完成は大岡實が亡くなった後となっている)

大岡實は時代の要請にあった不燃建築(コンクリート造)による社寺建築の設計を旨とし、建築家として邁進してきた訳であるが、必ずしも木造建築を否定してきたわけではなく、発注者の思いと条件が揃えば木造の社寺建築も手掛けているようだ。それは長年に渡り、文化財保存の場に身を置いてきたことからの伝統的社寺建築への深い造詣が、その設計活動の中に一貫して流れていることからも頷けることであろう。

そして木造の釈王寺本堂が大岡實の遺作となったことは、結果として大岡實の伝統的社寺建築への思いを後世に残すことにもなったのではなかろうか。



年月	西暦	工事名	所在地	工事期間	助手	構造設計	施工	構造種別
昭和60	1985	釈王寺 本堂	香川県 東かがわ市	昭和60~63	松浦弘二	松浦弘二、松本構造設計	社寺建築工務所	木造、一部RC造

釈王寺 地図

